

藤田商事

「東北支店」を一新

切断能力倍増、在庫アイテムも拡充

藤田商事(本社・千葉県浦安市、社長・藤田忠義氏)は、東北支店(仙台市若林区、支店長・小室清志執行役員)を全面リニューアルし、最新鋭設備や効率的レイアウトを備えた新「東北支店・東北鉄鋼センター」に一新した。建屋は1.5倍に拡大し、構造用鋼などの切断加工能力は倍増。在庫アイテムも拡充し、多品種変量・短納期ニーズに対し、よりフレキシブルに対応する体制を整えた。投資額は約6億円。15(19日に現地見学会(FUJITAプライベートフェア東北2015)を開催する。

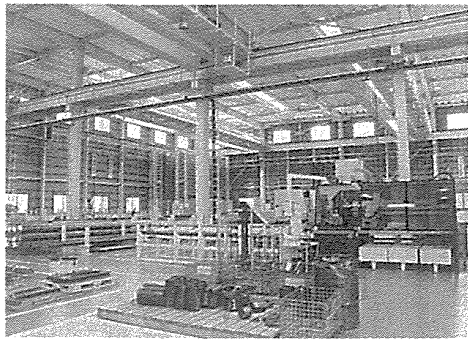
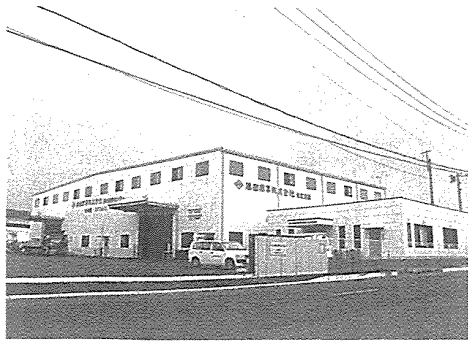
東北支店は1983年開設で、工場建屋の老朽化が進み、業容の拡大に伴い手狭となったため、敷地内(7933平方メートル)で建て替えた。新築建屋は1858平方メートルで、重量物を容易にハンドリングできる頑丈で堅牢な構造とした。設計・施工はJFEシビル。

切断設備ではシステム全自動超硬丸鋸盤「KASTOvariospeed C15」、システム全自動高速帯鋸盤「KASTOcut4」を新設。い

月商1億2千万円から1億8千万円への拡大を目指す。販売量は月

1千ト、うち切断品販売は月600トに拡大する。在庫量は25%増の1千トに増やし、構造用鋼で東北随一の在庫アイテムを揃える。

同社は独工作機械大手、KASTO社の日本総代理店でもある。独SAVウォーカーハーゴ社製のマグネットリフター販売も近く開始する。



完成した東北支店・東北鉄鋼センターの外観(上)、内部

ずれも「材料自動供給+切断品自動仕分け装置」を搭載し、多種類・多数の異なる材料を連続で精密切断し、夜間無人操業も可能。物流機器では、切断残材管理の効率化や工場内のデッドスペースの有効活用を狙いに、簡易式立体自動保管システム「KASTO UNITOW ER30」を新設。定尺材用クレードル立体保管システム、全自動帯鋸盤1台は移設した。

東北支店は宮城、山形、福島など東北6県の約150社への小口販売が特徴で、当面は